

高齢者と障害者の自立のための

第42回国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2015

会 期：2015（平成27）年10月7日(水)～9日(金)
会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）
出展社数：522社・団体（日本461社・団体、海外61社）※見込み
開場時間：午前10時～午後5時
入 場 料：無料（登録制：当日または事前）
主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

14 か国・1 地域から 522 社が出展

各社が展示ブースを拡充して開催！

いよいよ、10月7～9日の3日間、国際福祉機器展 H.C.R.2015 が、東京ビッグサイトで開催されます。介護・福祉機器の分野の展示会では、海外でも、アメリカの Medtrade、ドイツの REHACARE に次ぎ、アジア最大の規模といわれる H.C.R.には、今年は14か国・1地域からの522社が出展、約20,000点の最新の福祉機器が集中展示されます。

国内企業も多くが前年よりも展示ブースを拡大し、さらに展示規模を拡大させての開催となります。

【開催内容と会場での配付物につきまして】

I 福祉機器約 20,000 点を総合展示

出展社・団体の一覧、会場図（展示ホール内の小間番号やブース位置）などについては、「H.C.R.ニュース開催号」をご覧ください

II H.C.R.2015 イベント

<シンポジウム・セミナー・特別企画・出展社プレゼンテーション>

展示会と併催する H.C.R. イベント（次頁より概要を紹介）の詳細な内容、会場、開催時間などについては、「H.C.R.2015 イベントのご案内」をご覧ください

1. 国際シンポジウム

今後のわが国の介護サービス従事者の確保や介護サービスの充実の方策について考えます！

【プログラム №1】 介護サービス従事者をいかに確保するか？

～ドイツ、米国、日本の比較から今後の課題とその対策を考える **手話通訳**

◆開催日時：平成 27 年 10 月 8 日（木）13：00～16：40

◆会場：会議棟 6F 605-608 会議室

◆講師 [シンポジスト]：

①ドイツ／グリット・ブレセケ (Dr. Grit Braeseke) 氏：

ヨーロッパ・ヘルスケア・リサーチ&社会経済研究所 サイエンス分野担当部長

②アメリカ／ロビン・ストーン (Dr. Robyn Stone) 氏：

米国リーディング・エイジ・センター事務局長、元ホワイトハウス副次官補佐（障害者・高齢者・介護政策担当）、元米国保健福祉省次官補代行

③日本（施設現場の立場から）／湯川 智美 氏：社会福祉法人 六親会常務理事、本会監事

④日本（研究者の立場から）／塚田 典子 氏：日本大学商学部教授、本会理事

◆チューター：近藤 純五郎 氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

◆満席により、当日受付による参加・聴講はできません。

2. H.C.R.セミナー〔会議棟 6F にて開催、共通資料（1部 1,000 円）あり〕

一般・福祉サービス利用者・家族、施設関係者、企業関係者などにさまざまな最新情報を提供！

10月7日（水）

11：00～12：30

【プログラム №2】 福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方々

講師：小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

14：00～16：30

【プログラム №3】 福祉施設の実践事例発表 ～ 役立つ活かせる工夫とアイデア

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

《A 会場／ケアに関する工夫事例》

発表事例（予定）：①口腔ケアの取り組み ②実践的転倒予防トレーニング

③命の最後を安心して迎える為の支援～大好きな家族と住み慣れた家で～

④コミュニケーションと食支援の実践～言語聴覚士 15 年の取り組み～

⑤QOL 向上への取り組み ～一人暮らしのいきいきライフ～

司会進行：眞下 宗司 氏 社会福祉法人 誠光会 身体障害者療護施設誠光荘施設長

《B 会場／マネジメントに関する工夫事例》

発表事例（予定）：①エーデル土山の BCP 計画&施設管理室の取り組み

②社会福祉懇談会における日本経営品質賞勉強会の取り組み

③利用者の尊厳と権利が守られる暮らしの実現を目指して～全社的取り組みから～

④介護職員の腰痛管理で入居者により安全で安心した介護サービスが提供できる

⑤中間的就労（ユニバーサル就労）の実践

司会進行：久木元 司 氏 社会福祉法人 常盤会 理事長

10月8日（木）

10：30～12：00

【プログラム№4】高齢者むけの住まいの種類と選び方

～有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など手話通訳

主な参加対象者：高齢者およびその家族

講師：小瀬 有明子 氏 NPO 法人 シニアライフ情報センター 理事

10月9日（金）

11：00～12：30

【プログラム№5】一般家庭における介護で腰痛にならないための基本技術

～ボディメカニクスの理解と活用手話通訳

主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパーなど

講師：青柳 佳子 氏 浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

13：30～15：00

【プログラム№6】障害者に対する差別の禁止と合理的配慮

～障害者雇用促進法の改正および障害者差別解消法の制定を受けて手話通訳

主な参加対象者：企業、行政、福祉関連団体の関係者などのほか、テーマに関心のある一般の方々

講師：長谷川 珠子 氏 福島大学 行政政策学類・法学専攻 准教授

13：30～15：30

【プログラム№7】ユニバーサルでエコなまちの創生

～2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて

I 基調講演：炭谷 茂 氏 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長

社会福祉法人 恩賜財団済生会理事長

II 事例報告：①社会福祉法人 太陽の家理事長 中村 太郎 氏 ②アルハイテック(株)常務取締役 水木 伸明 氏

※ 各セミナーへの参加をご希望の方は、各プログラム開始 30 分前より当日の参加申込の受付をいたします。

3. H.C.R.セミナー〔東ホール内にて開催、資料を販売・配付、事前申込不要〕

特設会場 A (東 3 ホール内)

【プログラム№8】 はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー 手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類して、3日間にわたりセミナーを開催します。

3日間のセミナーの概要は以下のとおりです。

《10月7日(水)・住宅改修編》

- ①トイレ・排泄用品 ②住宅改修 ③入浴機器

《10月8日(木)・基本動作編》

- ④ベッド ⑤リフト等移乗用品 ⑥杖・歩行器等補助用品 ⑦車いす

《10月9日(金)・自立支援編》

- ⑧コミュニケーション機器 ⑨福祉車両 ⑩自助具

主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など

◆定員：200名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）

◆副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を本セミナー会場にて販売しています。1冊100円です。

特設会場 C (東 6 ホール内)

【プログラム№9】 高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ [高齢者の料理講座] 手話通訳

高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦世帯などでは日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっていることを踏まえ、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとに、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単で、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる食事の作り方と実演にてご紹介します。

会場で配布するテキストには、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明、掲載しています。

「特設会場 C」の特設ステージにて、毎日 13:00～14:00 の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催します。

主な参加対象者：高齢者及びその家族、ホームヘルパー、在宅サービス事業者など

講師 今 寿賀子 氏 虎の門病院栄養部部長、押田 京子 氏 虎の門病院栄養部副部長

定員：100名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）

★H.C.R.2009 から本講座で紹介してきたレシピを全て掲載した冊子を、本講座の会場にて販売しております。1冊700円です。

4. H.C.R.特別企画（東6ホール「特設会場B・C」、東5ホール内など）

注目の最新機器、便利グッズや子どもむけ製品など、テーマごとの展示や相談・講座・プレゼン

特設会場B（東6ホール内、ガレリア入口横）

【プログラム№10】アルテク講座 2015

～身の回りにあるテクノロジー（アルテク）で創る豊かで楽しい生活 手話通訳

誰もが日常活用しているスマートフォン、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT（情報通信技術）製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすためのさまざまなアイデアについて紹介します。

【講座テーマ】

《10月7日（水）》

- ①Windows パソコンのアクセシビリティと応用 ～ アルテクを用いた障害のある人の生活支援
- ②スマホやタブレットのアクセシビリティ ～ 肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす
- ③アルテクを読み書きなどの学びのツールに変える～ アルテクを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援

《10月8日（木）》

- ④障害者差別解消法とアルテクの意味 ～ 合理的配慮の1つとしてのアルテク
- ⑤障害者雇用とアルテク ～ 障害者雇用現場でのアルテク活用の実例
- ⑥スマホやタブレットを視覚障害の福祉機器に変える ～ アルテクを用いた視覚障害のある人の生活支援

《10月9日（金）》

- ⑦スマホやタブレットを生活支援ツールに変える～アルテクを用いた肢体不自由のある人の支援のポイント
- ⑧身の回りにあるテクノロジー（アルテク）が支援技術に変わる ～ 高齢者や障害のある人の生活支援
- ⑨ゲーム用カメラやタブレットのカメラを生活支援ツールに変える～重度肢体不自由や重複障害のある人の生活支援

特設会場C（東6ホール内）

【プログラム№11】障害児のための「子ども広場」

1. 福祉機器展示コーナー

終日展示。「イベントのご案内」の時間割により展示製品についての「機器説明」を聞くことができます。
(運営協力:横浜市総合リハビリテーションセンター)

2. 相談コーナー

「イベントのご案内」の時間割により、「療育相談」と「福祉機器相談」の2名の担当が配置されます。
(運営協力:横浜市総合リハビリテーションセンター)

3. 現在も未来も大切です！子どもの住宅改造（肢体不自由・発達障害）相談コーナー

子どもの住宅改造事例をパネルで紹介し、専門職が相談に応じます。また、昨年に引き続き、知的障害や発達障害のある子どもの住宅改造の事例紹介やご相談もお受けします。

◆日程：10月7日（水）～9日（金）の各日14：00～16：30に専門職が相談に応じます。

（協力：横浜市総合リハビリテーションセンター）

4. 子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編

「車いすって疲れる」「うまくいきたいところに行けない」そんな悩みを持っていませんか？正しい技術や乗り方・漕ぎ方を知ればそんな悩みも解消されます。

姿勢が変わるだけで、車いすの操作のしやすさは変わります。漕ぎやすい姿勢に調整・アドバイスをいたします。

ハンドリムの握り方や漕ぐときの腕の使い方にも様々なポイントがあります。今よりもっと楽に、早く、遠くに。自分の力で動きたいというお子さまの世界を広げるために正しい技術をお伝えします。各メーカーの車いすも試乗できます。ご家族でぜひご参加ください。

◆日程：10月8日（木） 参加定員：15名（事前申込制）

◆プログラム：

①12:45～13:15 車いす試乗・調整 ②13:15～15:00 車いすトレーニング ③15:00～15:20 商品紹介

（協力：横浜市総合リハビリテーションセンター、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会）

5. ひとやすみコーナー

保育士が常駐しています。広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者（親）のみなさんと子育てについてお話ししましょう。

（運営協力：東京都社協保育士会）

【プログラム№12】 ふくしの相談コーナー

技師、作業療法士などの専門家が、福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じます。

（運営協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児協会 大肢協ボランティアグループ自助具の部屋）

【プログラム№13】 高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

～いつまでも元気に働く「10のコツ！」展

さまざまな生活場面の中でも、人々の生活を支え、健康、生きがいに繋がっているのが「働く」場面です。日本はどの国よりも早く超高齢社会を迎え、経験を重ね、ネットワークが広い熟年の方々は、今後ますます「働き手」としての需要が高まってきます。

では、いつまでも元気に働くには、どのようなコツがあるのか、また、どんな道具が支援してくれているか、多くの「働く高齢者」からのアンケートを元にしてこのコーナーを企画しました。

来場される方々に、「いつまでも元気に働く」ことについてこのコーナーで体感していただけたらと願っています。

● 「いつまでも元気に働くコツ」

…働く高齢者から寄せられた「コツ」紹介

● 「いつまでも元気に働くためのモノ」

…健康管理はこれで、通勤も快適（衣服・靴・鞆）、鞆に入る7つ道具、職場で威力を発揮

ご覧いただくと分かっていただけたと思いますが、実は、普段使っているモノのなかにも、アイデア次第で

「いつまでも元気で働く」を支援するいろいろな工夫があります。

どうか、手にとって、試してみてくださいと思います。

きっと、なかには、家族やお友だちに紹介したくなるモノもたくさんあるはずです。展示品を参考にされ、「いつまでも元気に働き、しかも楽しく働く」人が、一人でも増えることを願っています。

(企画・監修：共用品推進機構、運営ご協力：高齢社・かじワン、ブライト)

【プログラム№14】福祉機器開発最前線（デモンストレーションに 手話通訳）

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの情報提供や紹介の場として、最新の機器や製品の展示やブースでの説明及びデモンストレーションを行います。

今回は、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業や厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を含む以下の合計 12 点をご紹介します。

◇場所：東 6 ホール内「特設会場 C」

＜出展企業・団体と展示・デモンストレーション予定の製品＞

1. RT.ワークス株式会社 … ロボットアシストウォーカーRT.1【移動支援（屋外）】
2. NK ワークス株式会社 … 3次元電子マット式見守りシステム【見守り支援（施設）】
3. キング通信工業株式会社 … シルエット見守りセンサ【見守り支援（施設）】
4. 株式会社 MT ヘルスケアデザイン研究所／フューブライト・コミュニケーションズ株式会社ほか
… ニンニン Pepper
5. 株式会社 Xiborg／株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 … ロボット技術を用いた義肢装具
6. 株式会社タカラトミー … OHaNAS（オハナス）
7. 兵庫県立総合リハビリテーション中央病院ロボットリハビリテーションセンター
… 兵庫県立福祉のまちづくり研究所センター … 改良型筋電義手
8. 富士機械製造株式会社 … 移乗サポートロボット T1【移乗介助（非装着型）】
9. ナブテスコ株式会社 … 外出支援アシスト歩行車【移動支援（屋外）】
10. 株式会社日本アシスト … ロボット便座
11. 株式会社ネットワーク 21 … 独居高齢者の見守り・転倒検知システム【見守り支援（在宅）】
12. Danish Technological Institute／K.R.Hospitalsudstyr A/S（デンマーク） … OPUS 5 医療・介護ベッド

※国内企業は五十音順

*特設会場 C の特設ステージでの講座・デモンストレーション開催予定表

【プログラム№9】高齢者むけの手軽な日々の食事 [高齢者の料理講座]、【プログラム№14】福祉機器開発最前線のセミナー・デモンストレーションについては、以下のように開催します。

7日 (水)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線 デモンストレーション	13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の 食事[高齢者の料理講座]	14:30~16:00 福祉機器開発最前線 デモンストレーション
8日 (木)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線 デモンストレーション	13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の 食事[高齢者の料理講座]	14:30~16:00 福祉機器開発最前線 デモンストレーション
9日 (金)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線 デモンストレーション	13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の 食事[高齢者の料理講座]	14:30~16:00 福祉機器開発最前線 デモンストレーション

※自由参加、先着順にご案内いたします。

東5ホール内/小間番号: 5-09-08

【プログラム№15】被災地応援コーナー

昨年に引き続き、東日本大震災で特に被害の大きかった東北3県(岩手県、宮城県、福島県)のセルプ(障害者授産施設)の製品を販売いたします。

注1) 題名の横に「手話通訳」マークのついたプログラムは、手話通訳を行います。

注2) 各プログラム名の後の【 】内の数字は、プログラム№です。会場内でプログラムについてお尋ねの際などには、№の数字をお申し出ください。

注3) 取材について

- ①会期中の10:00~17:00の時間帯で可能です(東1ホール前に「プレス受付」を設置します)。
- ②事前に、H.C.R.WEBサイト(<http://www.hcr.or.jp>)の「出展社の方へ」内の「取材について」の内容をご確認ください。
- ③取材にあたっては、「プレス資料室」(東1ホール2F「商談室2」)もご用意しております。

H.C.R. 2015 事務局

(一財)保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F
TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 <http://www.hcr.or.jp>

【H.C.R.開催期間中の東京ビックサイト内での事務局ご連絡先】

TEL. 03-5530-1180 FAX. 03-5530-1600

※10月5日(月)10:00~10月9日(金)17:00の期間となります。